

令和7年度 第2回碧南市民図書館協議会 会議録

1 日時

令和8年1月21日（水） 午前10時～午前11時30分

2 場所

碧南市民図書館 2階会議室

3 出席者

(1) 出席者

宮本美枝子、杉浦あさの、角谷竹虎、山岸芳樹、小島逸男、三島晴子、
松崎三津江

(2) 事務局職員

教育長 小澤徹、教育部長 岡本和雄、生涯学習課長 金原厚夫、
市民図書館館長 大橋幹広、市民図書館副館長 長谷川有里
南部分館長 関由香、中部分館長 長田和子

4 傍聴者 6名

5 協議会内容

(1) 教育長あいさつ

(2) 会長あいさつ

(3) 議題

①碧南市の図書館サービス計画(第二次)の進捗状況について（図書館長）

資料「進捗状況(後期)」を使って令和6年度の進捗状況を説明

- ・雑誌スポンサー制度は、現在3社から雑誌4タイトルにスポンサーがついている
- ・持込パソコンの電源確保に関して、6年度末は7席となっているが、今年度4席増設し、現在11席になっている
- ・レファレンスサービスについて、レファレンス件数が前年度より、やや減少したがこれは利用者端末の操作方法の周知がすすみ、簡易な検索は利用者自身が行うようになったことと、本館では棚の場所をわかりやすくしたためと考える
- ・図書館HPのリニューアルを行い、お知らせやカレンダーなどの基本情報をトップに大きく表示し、わかりやすいHPにした。また、PC版とスマホ版とも同じ画面を表示できるようにした。
- ・「碧南電子図書館」での電子書籍の貸出も継続している
- ・妊娠中の方向けの図書館を子育てに役立てていただくための案内チラシを、引続き保健センターと市民病院で配布、市内の産婦人科医院で掲示している
- ・シニア層へのサービスとして、読みやすい文字の大きさの文庫本の買い替えや大活字の購入をしている。また、シニア世代から受けるレファレンスが多い分野の本も意識的に購入するようにしている
- ・「地域資料の収集と保存」について、地域資料の収集について令和6年度は397

件の地域資料を受入れた。また、碧南市在住やゆかりのある方が執筆し出版された資料を「碧南市民文庫」として登録し、貸出している。

- ・長年、図書館と共に歩み、協力していただいていた「碧南の図書館友の会」が令和6年度をもって活動を停止した。

②碧南市民図書館中部分館の今後について（生涯学習課長）

令和7年9月に碧南市は「財政非常事態宣言」を発出した。それに対応するための重点施策のひとつに「公共施設の見直し」が掲げられた。具体的な内容としては「同一目的施設の廃止又は休止」の方針が打ち出され、市内3か所ある図書館が対象となり、中部分館廃止案が出された。

碧南市の財政は「待ったなし」の状況であり、できることは直ぐにでも着手するとの方針により、報道機関への発表、12月議会への提出を行うこととなった。結果的に諮問機関である図書館協議会への報告・説明が遅くなったことについてお詫びを申し上げ、同時に、中部分館の今後について委員の皆さまのご意見を頂戴したい。

<中部分館の状況について>

平成7年（1995年）7月オープンだが、建物は昭和44年（1969年）に開館した碧南市立図書館を改装し使用。建設から56年が経過し、建物のハード面ではエアコンの故障はじめエレベータの改修等、館内設備の老朽化・修理部品の対応終了により、今後修繕や取替に多額の修繕費や工事費等が必要となることは避けがたい状況。

ソフト面では、令和6年度中の事業実績については、別紙資料「碧南市民図書館の事業実績」のとおり。市の中心部にある施設として多くの方の利用がある。

<中部分館の特徴及び独自の業務・事業>

- ・高齢者や子どもたち等、遠方の図書館まで自力で行けない利用者層が利用
- ・近隣の小学生（「町たんけん」の単元）や、幼稚園・保育園の図書館訪問の受け入れ
- ・利用者とのコミュニケーションが密にでき、きめ細やかな対応が可能
- ・中央・日進小学校への学期ごとの団体貸出、調べ学習の貸出などの窓口となっているため、先生方の運搬にかかる負担が少ない
- ・2階の閲覧室が、調べものや学習で利用可能

<中部分館の今後について>

市では9月に財政非常事態宣言を発出し、緊急行財政対策として、公共施設等の在り方を見直しを掲げ、同一目的施設の廃止又は休止を方針の一つとして掲げている。

「同一目的施設の廃止・休止」には、市民への影響を極力小さくするためとの考えがある。また、できることは直ぐにでも着手するとの方針から、まず、同一目的施設が3つあり（本館、中部分館、南部分館）、本館と南部分館の2カ所が市内の北部と南部に位置し地理的なバランスが取れていることを考慮した結果、市の判断・方針として中部分館が廃止の対象となっている。

閉館後の施設は、取り壊しではなく、民間提案制度の活用を視野に入れ建物の再利用を検討中である。また、現在中部分館2階にある「市史資料調査室」は移転し、2階の閲覧室は閉室となる。閲覧室については、代替えとなる場所がないかを模索中であり、学生等の利便性を考え、確保していきたい。

中部分館の所蔵資料 約6万冊は、精査の上、約半分の3万冊を本館等の市内他館へ移管し、残りは除籍とする予定。

閉館となった場合は、中部分館利用者に大変な不便を強いることになるため、事前に周知を行い、本館や南部分館、又は電子図書を利用するよう案内をする。

おはなし会等の各行事については本館、南部分館で継続する。中部分館独自で実施中の行事については、継続するものと中止するものを精査する。ただし、中央小と日進小への団体貸出は本館・南部分館で継続していく。

先月12月中に、中部分館利用者有志の方、図書館友の会関係者の方が「中部分館存続」の署名活動を行った結果、短期間にも関わらず、約600名の存続を求める署名が集まった。

現時点では「中部分館の廃止」は市の緊急行財政対策のための方針であるが、本日は図書館協議会ということで、図書館中部分館の今後に対する委員の忌憚のない意見を伺う場としたい。

教育部長：補足

市の方針が、まず、民間提案制度で中部分館閉館後に利活用する事業所を募集し、中部分館の廃止については事業所の応募があった時に、改めて議会に図ることになった。

会 長

初めて聞く話もあり、市民が知っているのか不安になる。中部分館の利用者からは継続を望む署名活動も起こっている。（諮問機関である）この会では賛否を問うことはできないが、図書館協議会委員であるみなさんの意見を聞いていく。

A委員

噂のレベルで閉鎖の話を知ったくらいで、理解が追いつかない。しかし、先ほど、市民憲章の最後の「若い力を育て、文化と教養のまちをつくります」を読んだ時に、「やっぱりそうだよね、碧南市」と思った。ずっと碧南に住んでいるが人口7万人の市に図書館が3館あり蔵書も多いことが自慢だった。また、図書館や美術館、水族館

館、芸文ホールなどもあることが、碧南市に住む理由になっていると思う。財政が厳しいのはわかるが、そこに手をつけるというのが、碧南市の人口を維持する意味づけを削ってしまうように思う。公的機関は利益を追求する機関ではないと思っているので、大きなマイナスは確かにいけないが、文化・教養の所は削ってほしくない。

B委員

図書館には、学校の団体貸出でお世話になっている。日進小・中央小では中部分館に本を用意してもらっている。個人的には中部分館の閉館はとても寂しい思い。一方で、一番危惧しているのが、学校の予算の削減で、実際に3パーセントほど削減されている。小さな学校で13万、大きな学校では20万ほど予算が削減されたので、その分、消耗品や備品が買えない状況が起こり始めている。

このような双方の状況から、この会で何を言ったらいいのか迷うが、慎重に協議して行って頂きたい。

C委員

碧南市は裕福だと思っていたが、自宅にポストイングされた「市長のご意見通信版」を読んで、大変な状況だとわかった。社会教育団体の半額免除も多分なくなるし、ゴミ袋も有料化される。市民にどんどん負担がかかってくるのが怖い。今は物価も上昇しているので負担を足されてしまうと生活するのが困難になり、楽しみも奪われていってしまう。また、利用の実績を見ると、中部分館は利用者が多い。これは未来の子どもたちに関わることなので、中部分館は続けて行ってほしい。

D委員

分館の今後について、この会では賛否は取れないということなので、自分の思ったことを述べさせて頂く。教育部長の話にあったように、閉館をすぐに決断するのではなくて、民間の利活用をまずは募集して、何か活路を見出していくのも良い。

E委員

自分は高浜市の住人。高浜市では今回のような問題がもっと具体的に起きている。一年前まで高浜市の会計年度職員として資料館に勤務していたが、雇止めになり、後任もおらず資料館は閉館になったままである。

民間企業のエンジニアとして企業で働いていた経験からすると今回の問題は一番重要な点が説明されていない。企業の場合はキャッシュ・アンド・フローで、将来にわたって利益になるかならないかをということを考える。今回、これをやめたらどれだけ予算が削減できるかという説明がない。また、予算は切ってもやらなきゃいけないことはある。中部分館を切っても継続してやらないといけないことは出てくる。それをやるための費用もまた出てくる。本当にこの問題は、それらを全部考えに入れて本当にやめていいのか、人々の利便性も考えて決めるべきだと思う。

F 委員

重い議題。中部分館は大好きな館で、学校教員時代にたくさん活用させてもらったし、特別支援学級の子たちが行って、いろいろなことを教えてもらった。また、今、日進小学校は一時待避所ではないと思うので、こちらの方へということで避難訓練も実施したりしていて、すごく大切な場所だとも感じている。老朽化ということは否めない部分があり、今後、多額の予算が必要になることはこの問題が起こる前から危惧していた。全体のバランスの中で、恒久的、持続的な運用の利活用をしっかりと検討してほしい。

また、市民のニーズの本質がどこにあるかも見極めてほしい。止めることは、「教育の質の低下」だと思う。様々な角度から方法を慎重に模索していくことが必要だと感じる。

会長

ひとつひとつ、もっと深く考えていくべき課題だと思う。考える時間、市民の意見を吸い上げる時間があるのでは。一方、「未来へつなごう。スマイルトーク」のチラシがこの会議の委員にも郵送された。民生委員や消防団など多くの委員にも送られていると聞く。この会に出て、もう一回立ち止まって話し合ひましょう、戻しましょうという雰囲気があるのか聞いてみたい。

教育部長

スマイルトークは市の現状や市長の考えを話す対話の場としている。参加された方から意見をいただいて、それについて市はこう考えているという意見交換の場として開催する。その時々に出た意見で、内容は変わってくると思われる。

F 委員

先ほど、民間提案制度の話が出たが、現在、市内でそういう業者が運営している所があるのか？

教育部長

今は民間提案制度という形はなくて、指定管理制度という形で行っている所はある。民間提案制度は、運営の中身も提案された事業者を決めてもらえる。たとえば喫茶店や図書を併設した飲食店など、どういう風に運営していくかは、提案された方の内容次第になる。

F 委員

先ほど、一つの見出し点として民間提案制度の提案が出たので、聞いてみた。安城市のアンフォーレの図書情報館に行くと、企業からのスポンサーがついている雑誌が碧南よりもたくさんある。何かそういった、市だけではなくて、市

が起爆剤となって、いろいろな方法が考えられていければいい。

会長

ここで、委員から意見書もいただいているので、目を通してもらいたい。

<意見書の内容>

- ①中部分館の閉館についての条例改正案は、昨年12月の議会で否決された。しかし、市は比較的早い時期に、この案を議会に再提出することを企図しているようである。これは議会軽視であり、市民の代表者の議員が決定したことを覆そうとするのは、碧南市民の民意を否定することに当たる。市は否決された民意を真摯に受け止めるべきである。
- ②市の財政を立て直すために第一に取りかかるべきなのは、「碧南市民病院の経営改善」である。市は、病院の売却も視野に入れながら、市民病院の経営改善を最優先事項として早急に行うべきである。
- ③中部分館は、利用者数・貸出冊数の統計から見て、長年、多くの方に利用され続けている図書館である。市民が必要としている中部分館を閉鎖することは、市民をないがしろするだけでなく、「図書館は、一般公衆の希望に沿い、学校教育の援助、家庭教育の向上に資することとなるように留意すべき」と規定する図書館法第三条にも違反する。
- ④中部分館の今後のあり方については、大規模避難所・待機場所を確保する目的も兼ねて文化会館の建て直しを行い、その中に中部分館と市史資料調査室も設置することを提案する。
- ⑤市長・副市長の報酬の見直しと碧南市議会議員の定数削減を行うべきである。

会長

中部分館の今後の方向性も少し書いてあるし、他の2つの図書館も建った時期がそれほど違わないため、今後も財政的に厳しくなると全部が中途半端になってしまうのではないかと危惧していると推察する。市の企画部が采配をしてくれず、市民が知らずにいて結果だけを受け入れざる得ないという形では、私たちは碧南市に住んで一生懸命頑張ってきたのに、「なぜ、そう簡単に無くしてしまうのか」と夢も希望もないように感じる。若者の中には、図書館に行って頑張ろうと思っている人もいるし、自分もこの年になって図書館の良さが改めてわかった。そういったものがいとも簡単に崩されていくのが、行政の厳しいところだと思う。

スマイルトークがあるということだが、何か具体的に市民に納得してもらえるよ

うな形のを設けるのは難しいだろうか？ 3月議会もすぐに始まってしまいが…。

教育部長

図書館の問題に関しては、3月議会に出すことは明確になっていない。

今後は、市の企画部門と話していくことになるが、教育部では、中部分館は必要ということになっても、市全体を俯瞰して見た時には、図書館はまだ2つ残るので、それぞれの館を充実させたり、公民館図書室などを充実していくことでいいのではないかという結論も考えられる。他にもいろいろな意見があると思う。後も市民の声は聞いていきたい。

E委員

図書館協議会の意味は、館長に「こうすると図書館はもっと良くなりますよ」という意見を言う会だと思っている。なので、こんな風に、図書館を減らそうということを（市執行部に）思わせないように、図書館をさらに魅力のある場所にしていく提案をすべきと思う。今、人工知能ということが急激に浸透してきている。図書館のレファレンスはAIのようなもので、何でも調べてくれる。図書館のレファレンスはAIのこともわかるし、AI以上のこともわかると市民にもっと知らせていくといいのではないか。

また、図書館のサークルについて、読み聞かせなどのいろいろなサークルがあると思うが、図書館に人が集まるようなサークルを作るのはどうか。ボランティアで図書館に協力したい人もいると思う。そういう人を集めてサークルにしていくのもいいのではないか。以上を館長に提案にする。

会長

確かに、前向きに考えていけると良い。

今、育っている子どもたちの中には、家に本がない子もいると思う。そういう子たちに本の良さを伝えたり、10年後20年後に、図書館を活用して、みんなが育っていける碧南市であってほしいと思う。

また、図書館で高齢者向けにスマホやパソコンなどを教えるIT教室をするなど、図書館を高齢者が喜んで行ける場にするのもいいのではないか。今、スマホの普及などで高齢者は疎外感を感じている。その核に図書館がなるなら、3つあっても良い。潰すということは簡単なことだと思う。でも、作る方は難しい。

図書館長

自分も中部分館は子どもの頃から利用していて愛着もある。また、中部分館利用者の方から、たくさんの残してほしいという署名もいただいた。とても愛されている図書館だと感じている。今回の意見は、執行部に伝えさせていただく。

生涯学習課長

今日、みなさまからいただいた意見は市の執行部に届けて、参考にする

(4) その他

生涯学習課長

次回の来年度の第一回目の会議は6月頃に開催する。

例年、第2回図書館協議会で報告していた来年度の事業計画については郵送で行う